

オオサンショウウオ保全と社会の課題 ～ハンザキプロジェクト2025～

松井久実（動物生理学）、坂西梓里（社会連携型PBL）、村山史世（地域環境政策）

研究の背景

- 🐸 開始から4年目となるプロジェクトです。
- 🐸 野外調査を通じオオサンショウウオの生態や魅力に触れ、その集団が暮らす地域社会の課題やオオサンショウウオなど野生動物との関わり、地域の未来について考えアクションプランを立案する課題解決プロジェクトです。
- 🐸 オオサンショウウオは西日本を中心とした清流に棲む世界最大の両生類です。外来種との交雑問題、河川改修による生息地喪失などの課題を抱えています。
- 🐸 オオサンショウウオが暮らすには里山が保たれ、また豊富な餌資源が維持される環境も必要です。
- 🐸 人とオオサンショウウオが共に暮らす未来のためのアクションプランを全世代で考えていく必要があります。



オオサンショウウオ Giant salamander
Andrias japonicus (Temminck, 1836)

アプローチ

🐸 オオサンショウウオを知る

1. 島根県内のフィールド（川）での夜間調査の方法を学び、オオサンショウウオを探し捕獲しさまざまな生体データを採取します。彼らの生態を知り、個体情報や身体情報の測定、超音波検査装置を用いた体内探索を行います。環境DNA調査も行います。
3. 調査を通じて。オオサンショウウオについての理解を深めます。

🐸 地域を知る

1. 2022-3年度に実施した市民アンケートでは、オオサンショウウオ生息地と非生息地での本種の保全に関する市民意識の差が浮き彫りになりました。非生息地に住む我々ができる取り組みの具体を考え、実行していきます。



2022年度プロジェクトの1コマ。
夜間調査で川の水からDNAを抽出。

期待される結果

- 🐸 立案したアクションプランは日本オオサンショウウオの会などで学外発表し、社会からのフィードバックを受けます。イベント企画の実施などで前年度以前のプロジェクトを発展させます。

現状とこれから

ジェネプロ4年目のプロジェクトです。2022-3年度はフィールドの開拓、オオサンショウウオ保全についての意識調査を行いました。2026年に麻布大学で日本オオサンショウウオの会の大会を予定しており、ジェネプロもその実行に関わっていきます。

🍓 ハンザキとはオオサンショウウオの別名です。半分に裂いても再生すると信じられていました。（実際にはそんなことはありません）

🍓 日本オオサンショウウオの会は、研究者から市民までオオサンショウウオに関心のある人達が世代を問わず参加する団体です。